会　　議　　録

会議名	令和４年度第１回山形市救急救命業務検証会議
開催日時	令和４年８月２９日(月)　１３時３０分から１５時００分
開催場所	山形市西消防署多目的ホール
主催	山形市消防本部
出席者 (敬称略)	・構成員（９名） （五十音順）金谷透、後藤道子、笹原勢一郎、野口比呂美、廣部公子、藤澤睦夫、細谷真紀子、松田直樹、森野一真 ※髙橋宗弘（欠席） ・山形市（８名） 市長、消防長、通信指令課長、情報通信総括主幹(兼)通信指令課長補佐、通信指令課長補佐、救急高度化推進総括主幹(兼)救急救命課長補佐、救急救命課長補佐(兼)計画推進係長
傍聴者	・なし
検証事項	■救急活動事故対策研修会について（救急救命課） ■応急手当普及啓発活動について（救急救命課） ■１１９番通報の聴取に関する個別評価について（通信指令課）
座長(敬称略)	森野 一真
資料	配布資料参照
作成者	山形市消防本部　通信指令課長補佐　菊地　洋一

■市長あいさつ

市　長

みなさんこんにちは。本日は大変お忙しい中、山形市救急救命業務検証会議にご出席賜りまして誠にありがとうございます。また、今回の会議から新たに山形市老人クラブ連合会の藤澤睦夫様、また、山形新聞社の松田直樹様に参加をいただいておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。さて、前回の検証会議におきましては新型コロナウィルス感染症の影響からオンライン会議とさせていただきました。救急活動における事故対策や指令時間の迅速化等について検証していただいたところであります。頂戴いたしましたご意見を踏まえて更なる救急救命体制の整備と職員の技術向上に取り組んでいるところであります。本日の会議では、継続して実施しております救急活動事故対策研修会、応急手当普及啓発活動のほか、新たな取り組みとして、今年度から実施している１１９番通報の聴取等に関する個別評価について、検証いただければと思っております。いただいたご意見は今後しっかりと生かしてまいりたいと思っておりますので、ぜひそれぞれのお立場から忌憚のないご意見を賜ればと思います。どうぞよろしくお願いします。

■座長選出

森野 一真　山形県立中央病院副院長（兼）救命救急センター長

■検証

１　**救急事故対策研修会について**（救急高度化推進総括主幹説明）

※【会議資料１】により説明

《構成員からの質問・意見等》

構成員

事故防止への取り組みの中で、活動中の確認呼称について、抜けやすい行動パターンがある程度明確になり指導救命士が指導しているとあるが、例えばどういうことなのか。

山形市

指導救命士が各署所に出向して指導している。隊長、また、隊ごとによって抜けやすい確認呼称が違うことから、各隊長や隊ごとに個別化した指導を徹底し、確認呼称の抜けが少しでも減らせるよう取り組んでいる。

構成員

確認呼称を忘れた場合、忘れていることを伝えるための雰囲気作りも行っているのか。

山形市

出動から帰署後、すぐに隊員間で話せるような雰囲気作りを心掛けている。

構成員

車載する携帯型の冷蔵庫に関する特異なヒヤリハット事例との記載があるが、具体的には冷蔵庫に入っている薬品の取り扱いに関することなのか。

山形市

救急車に積載している携帯型の冷蔵庫は薬品だけでなく、熱中症対策の飲料水等も入っている。この冷蔵庫は横にも縦にも設置可能であるが、置き方によってはコードを破損させてしまうおそれがあるというのを事前に発見できたという事例である。

構成員

「インシデント」や「ヒヤリハット」という言葉はどういう意味なのか。

山形市

資器材を破損させた、または、傷病者に悪影響を及ぼしたことを「インシデント」。また、「インシデント」に至らなかったものを「ヒヤリハット」と区別している。

構成員

指導救命士が出向し指導を行っているというのは、通常行っていることに対し課題のある隊に個別に行っているということなのか。

山形市

以前の会議で報告した各署の隊を１か所に集めて行う活動訓練とは別に、今年度新たにテーマ別に検証を行い、各隊や個人ごとに弱点を抽出したうえで指導救命士が出向して指導するということに取り組んでいる。

構成員

原因分類の詳細について、対策立案実施の欄に実施済と未実施があるが、未実施のところの進捗状況はどうなっているのか。

山形市

対策立案は原因件数の多い項目から優先して実施している。未実施の項目についても順次課題を検証したうえで実施していく。事故対策研修会は３か月に１回開催しているので、できるだけ

早期に実施していく。

構成員

インシデントやヒヤリハットについて、もう少し具体的に記載したほうが検証しやすい。事例の共有フォルダには具体的な事例として記載してあるのか。

山形市

共有フォルダには詳細な事案として記載しており、全救急隊員と通信指令課員が共有できるようになっている。

構成員

このような会議の資料にも事案内容をピックアップしてもらいたい。

座長

ヒヤリハットに関しては全国の消防本部でもここまできっちりやっているところは少ないと思われるので、ぜひ継続してほしい。悪いところを指摘するだけでなく、よかったところ、これがあったのでインシデントやヒヤリハットを防げた事例の共有も必要である。また、階級がある組織のため言いづらくなっていることもあると思うので、その部分の改善も必要である。

２　応急手当普及啓発状況について（救急高度化推進総括主幹説明）

※【会議資料２】により説明

《構成員からの質問・意見等》

構成員

ＡＥＤ貸出事業について、申請手続きは公民館や市の施設でも可能なのか。

山形市

申請に関しては、市のホームページから申請書をダウンロードし、記入した申請書を救急救命課へお持ちいただくか、救急救命課あてに FAX する方法のほか、電子申請という方法もある。救急救命課には申請書を用意しているので、お越しいただいての申請も可能である。公民館への申請書の準備も今後検討していく。

構成員

前回の会議で、貸し出しの際、心肺蘇生法等のパネルを展示し広報することを提案したが、実際にそのような広報はあったのか。

山形市

パネルは準備できなかったが、代わりにチラシを作成し、スタッフに配付して広報している。ＡＥＤの使用法についてもラミネートした資料を貸出し活用してもらっている。

構成員

応急手当指導員・普及員が独自で上級救命講習を開催しているが、効果測定等を含め独自開催することについて消防本部と連携ができているのか。

山形市

担当の指導員と連絡を取り合って実施している。

構成員

連携の内容は具体的にどのようなものなのか。

山形市

基本的に「応急手当指導マニュアル」に沿って統一した指導を行うことと、新型コロナウイルス感染症の感染対策の部分について、確認を行っている。

構成員

実際に試験はどのような形で実施されるケースがあるのか。

山形市

筆記試験などは複数の設問パターンのものを用意しており、毎回別パターンの問題で試験を実施するよう担当指導員に伝えている。

構成員

ＡＥＤ貸出事業について、現在２台の貸出しとあるが、今後増台する予定はあるのか。

山形市

先進で事業を始めている都市から情報を集めたところ、人口等、同じような規模の消防本部では、月２回程度の貸出しを行っているとのことであったため、その情報に合わせ事業を開始した。事業の広報についても今後の検討課題であり、併せて需要も増えれば増台を検討していく。

構成員

応急手当普及員と応急手当指導員は管内に何人いるのか。

山形市

応急手当指導員は消防全職員を含め３３３名、応急手当普及員は１００名いる。

構成員

西置賜行政組合消防本部では６年前から救命処置の音声ガイドを使用しているが、この取組について山形市消防本部ではどのように考えているのか。

山形市

音声ガイドを使用していることは伺っている。当本部では口頭指導マニュアルを作成し、心肺蘇生法等、応急処置が必要な場合においては、各指令員がマニュアルに従い統一した指導を行う体制をとっている。

構成員

会議資料２の応急手当講習の種類について、表のとおりの講習を受けていると、普段から応急手当が必要な場合などに対応できると思う。ＡＥＤも含め、地域、町内会等、何らかの形で協力していく必要がある。応急手当講習会の種類の表を、回覧や町内会の会合等の際に活用させてもらえないか。

山形市

ホームページにも掲載しているものでもあり、協力してもらえるのであれば是非使用していただきたい。

構成員

子育て支援の中で、子どもに関するボランティアに対し、毎年１回は必ず救命講習を受講するよう活動している。救命講習カリキュラムについてどのような考えで作成しているのか、また、保育者等もいるため、受講する人によって救命講習のカリキュラムについてどの講習がふさわしいか等の情報をもらいたい。

山形市

応急手当講習では救命に関する基礎知識や救命に必要な技術習得の必要性を理解し、救命に必要となる基本的な部分を柱とし、さらに継続的に受講していくことでその柱がより太くなる。

基礎知識では心臓の働きや、血液の流れ等の仕組みを理解してもらい、質の高い胸骨圧迫にＡＥＤの使用が加わることにより更に効果的な救命処置が実施されるということを学んでもらうカリキュラムとなっている。

構成員

子ども、高齢者等、対象者によってカリキュラム内容に違いはあるのか。

山形市

年齢に対してのカリキュラムの違いはない。受講者の年齢等、背景は指導者側で把握しているので背景に合わせた指導を実施している。

普通救命講習Ⅲは小児用の講習となっており、普通救命講習Ⅰ・Ⅱは成人の講習となる。

座長

どのような職種等の人がどの講習を受講すればよいのか、確認できるような講習種別の表があればよいのではないか。

山形市

講習種別を確認できる表の作成を検討する。

座長

様々な職種、年齢、背景の人でも、どの種類の講習を受ければよいか分かりやすい表を是非検討してもらいたい。

３　１１９番通報の聴取等に関する個別評価について（通信指令課長説明）

※【会議資料３】により説明

《構成委員からの意見・検討等》

構成員

マイナス面だけの評価ではなく、取り組みに対しここは良かった、上手く出来た等、プラス面の共有。また、気持ちの上でも余裕を持ってプラス指向の共有ができる評価項目についてもぜひ作成していただきたい。

山形市

コロナ禍での通信指令業務の中、様々な研修会等を通して技術の向上を図っている。

コロナ対応として質問事項を少なくしたり、コロナに関する聞取りのフロー等を作成するなど対策を講じている。その上で、マイナスの部分だけでなくプラスの部分も評価、共有して技能の向上に努めていく。

構成員

いろいろな会議に出席しているが、資料も含めてやりっぱなしであったり、継続性のないものが多いと感じる。今日のような会議が本来あるべき姿と痛感したし、大変いい勉強をさせてもらった。評価と検証を行っており大変すばらしい会議であったと思う。

山形市

いろいろな研修や講習を開催し、指導を行うだけでは業務につながっていかないため、研修や講習が通信指令業務につながっているのかを確認しながら今後も進めていきたい。

構成員

２ページの評価結果を見ると、自己評価よりも他者評価のほうが評価が良い内容となっており、指令のプロとして自己管理ができていると感じた。そのうえで実際に今回の対応等を資料で確認できたことで、市民としては安心して１１９番の対応に目を向けられると感じた。

４ページの（３）と（４）にかかわる部分で、接遇研修を受講した職員は職場に戻って伝達講習をしたとのことだが、受講の感想があれば教えてもらいたい。（４）に関しては、これから実施するものと思うが、どのようなことを検討しているのかを教えてもらいたい。

山形市

（３）の接遇研修による伝達講習については、県市町村研修の協議会主催の研修に参加した職員が、研修資料を基にパワーポイントで講習スライドを作成し、課員全員に伝達している。伝達内容を忘れないように伝達講習を年２回行い、更なる接遇の向上を図る。

（４）については接遇に関する専門家を調査し、接遇研修を実施するよう考えている。

構成員

自己評価から他者評価までの期間はどれくらいあるのか。現場での評価となると他者が確認しながら評価するのか。また、他者評価をしたらすぐにフィードバックしてほしい。６月３０日で終了したとのことだが、引き続き実施してほしい。

山形市

自己評価が終了したら速やかに他者評価を実施し、コミュニケーションをとりながら評価の内容を伝えて技術の向上を図っていきたいと思う。年４回の実施を予定しており、効果を確認しながら研鑽を進めていく。

構成員

１１９番は命と隣り合わせの非常に貴重な大切な業務となっている。先ほども申したが西置賜行政組合消防本部で行っている音声ガイドについて、この資料を見て改めて思ったのだが、経験年数等を考慮すると自動音声ガイダンスは結構有効なのではないかと思う。以前、西置賜行政組合消防本部を取材したとき通信指令員が通報者とやり取りする際に、必要だと判断したときには音声が自動で流れるので、その間、通信指令員は別の通報等に集中できて結構有効だと聞いた。検討だけでもしてもらいたいと思う。森野座長は一番詳しいと思うがいかがか。

座長

指令員の経験年数やスキルを補う手段としては良いと思うが、山形市消防本部の場合は比較的専従の指令員が多く、他の消防本部では兼務で指令員をしていることが多いため、西置賜行政組合消防は導入しているのだと思うが、導入を検討するのは悪いことではないと思う。

構成員

救急車の適正利用について、市民側が実際に適正に利用されているのか数字的なものを教えていただけると次の一手が出てくるのかなと感じる。

山形市

山形市消防本部では「救急要請」という言葉があればすべて出動するシステムになっている。

構成員

要請があればすべて出動するということだが、職員の負担にならないように、２４時間サービスでもよかったのではないか等の検証もできるのではないかと感じた。

構成員

私のクリニックでは透析の日なのに来ない患者に連絡し、連絡がつかなければ直接、医師・看護師が訪問して確認するが、２年間で３～４人が倒れていたケースが実際にあった。特に一人暮らしの家庭には、地域見守り隊のような形で患者の命を助けるということに関して、救急隊だけではなく行政の力等、連携して取り組んでいかなければならない重要な問題だと思う。

座長

非常に素晴らしい評価票を作ったと思うが、この項目全てを一気に評価するのか。評価する方の負担も考慮し、１回の評価項目数を加減して実施するとか、評価内容毎に分割して実施するなど、評価の実施方法も検討する必要があるのではないか。

山形市

３か月に一回、評価票を確認し研修等を通して、次のスパンまで改善ポイントを改善するということを繰り返し、年間トータルで通信指令課員の技術向上を図る。評価の実施方法については検討する。

構成員

仙台市消防局のものを参考にしたとのことだが、山形市では存在しない「海」や「海岸」などの文言は消してもよいのではないか。より山形市に根付いたものにしてほしい。

構成員

山形市福祉協議会でも進めている三者懇談会で高齢者のことをいろいろ話しているが、世帯票の提出を依頼しても個人情報の観点からなかなか提出してもらえない。町内会長等が高齢者や体の不自由な人をしっかり見ておけば有事の際、役立つのではと考えている。

■次回開催について（救急高度化推進総括主幹）

今年度の第２回目については、令和５年３月頃を予定している。

■閉会